

ハスカップのおはなし



もくじ



ぼく、ハスカップ王子。
これからハスカップの
説明をするよ。
よろしくね！

調べてみよう、^{ひがしいぶりちいき}東胆振地域のハスカップ。 . . . 1ページ

ハスカップの^{じせいちぶんぶ}自生地の分布。 2ページ

北海道での^{じせいちぶんぶ}自生地の分布。 3ページ

^{ゆうふつげんや}勇払原野とハスカップ。 4ページ

農業としてのハスカップ^{さいばい}栽培。 6ページ

ハスカップの^{せいだい}生態。 7ページ

ハスカップの^{しゅうかく}収穫、そして^{しょくたく}食卓へ。 10ページ

ハスカップ^{かじつせいぶんとくちょう}果実の成分の特徴。 12ページ

ハスカップのおいしい食べ方。 15ページ

^{いぶり}胆振は、右の図のように北海道の中^{ちゅう}
^{おうなんぶ}央南部にあります。

そして、^{とようらちょう}豊浦町、^{とうやこちょう}洞爺湖町、^{そうべつちょう}壮瞥町、
^{だてし}伊達市、^{むろらんし}室蘭市、^{のぼりべつし}登別市の区域を西胆
^{ぶりちいき}振地域、^{しらおいちょう}白老町、^{とまこまいし}苫小牧市、^{あひらちょう}安平町、
^{あつまちょう}厚真町、^{ちょう}むかわ町の区域を東胆振地域^{ひがしいぶりちいき}
^よと呼んでいます。



調べてみよう、東胆振地域のハスカップ。

あざやかな^{しき}四季、そして^{こうだい}広大な^{たい}大地、きれいな水と空気、私たちは、この^{くわ}北海道で暮らしています。

そして、^{こうだい}広大な^{かくちいき}北海道の各^し地域では、それぞれ^{こと}異なった^{しぜんかんきょう}自然環境、文化、歴史などを^も持ち、その^{ちいき}地域ならではの^{とくちょう}特徴があります。

^{ひがしいぶり} 東胆振^{ちいき}地域では、毎年、7月にな

ると、右の写真のように、ハスカップが^{みの}実るのです。

ハスカップは、^{ひがしいぶり} 東胆振^{ちいき}地域には、たくさん^{じせい}自生して、日本で、ただ1ヶ所^{ぐん}の^{せいち}群生地だといわれていました。そして、^{きょうど} 郷土^{あじ}の味として、^{した} 親しまれていました。そんな、ハスカップについて、もっと^{くわ}詳しく学んでみましょう。



ハスカップを見たことある？
実の大きさは、1～1.5cmぐらいだよ。
さわってみると、皮はうすくてプヨプヨしている。
中身は、とっても^{あま}ジューシー。
皮ごと食べられて、甘ずっぱいんだよー。

<まめ知識>

ハスカップという言葉は、アイヌ語のハシカプに由来していて、「^{えだ}枝の上にたくさんなるもの」という意味があります。

植物の名前は、「^{しよくぶつ}クロミノウグイスカグラ」または「ケヨノミ」とされています。

ハスカップの自生地の分布。



地図：総務省統計局・統計研修所ホームページより

ハスカップは、北方系の植物で、その自生地は、シベリア、中国東北部、樺太、千島列島などで、日本では、本州中部の標高の高い山から、北海道に分布しています。

<まとめ知識>

シベリアとは、ロシアのウラル山脈より東側の北アジア、東アジアの地域の呼び名です。

ここでは、タイガと呼ばれる広大な森林が広がっています。



苦小牧の植物を研究していた中居正雄さんは、1978年、バイカル湖周辺の街、ブラーツクに訪れ、そこで、ハスカップを見つけたんだ。これが、その時の写真だよ。



シベリアで見つけたハスカップ

北海道での自生地の分布。



北海道での自生地は、2つのタイプに分けることができます。

一つは、湿原とその周辺で、勇払原野、釧路湿原、霧多布湿原、別海町周辺、大樹町などで見られ、もう一つは、標高の高い高山帯から亜高山帯で、大雪山、知床、美幌峠などで見られます。

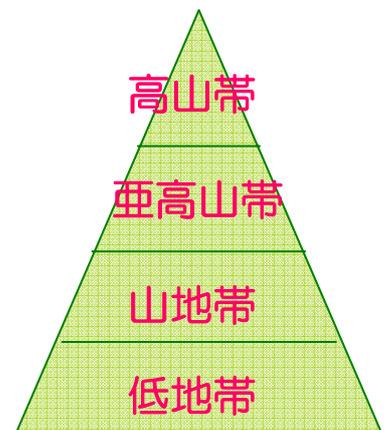
北海道での自生地は、北海道全体に散らばっています。

その自生地のなかでは、特に東胆振地域の勇払原野には、たくさんのハスカップが自生していて、日本で、ただ1ヶ所の群生地だといわれていました。

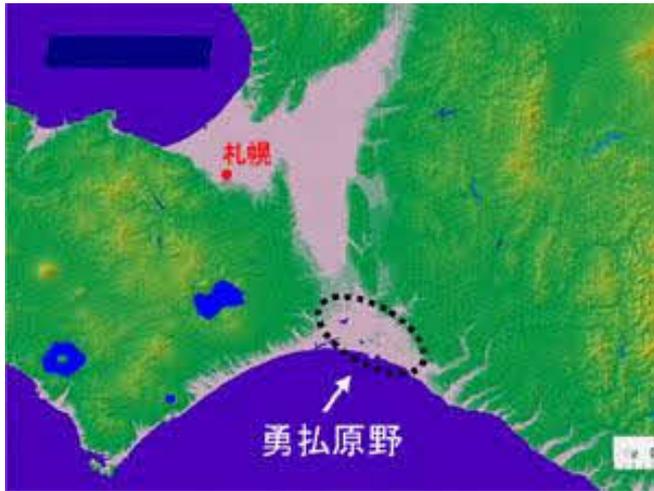
<まとめ知識>

植物の分布は、標高とともに変化していきます。標高が低い方から、低地帯、山地帯、亜高山帯、高山帯と呼びます。

亜高山帯までは、森林は育ちますが、高山帯では、森林が育たず、高山植物が多く見られます。



勇払原野とハスカップ。



図：ウトナイ湖サンクチュアリーネイチャーセンターホームページより

左の図のように、北海道の中央より、やや西側の苦小牧やその周辺～
たいへいよう いた いっ たい ゆう ぶつげん や よ
太平洋に至る一帯を勇払原野と呼ん
でいます。

ゆう ぶつげん や
勇払原野には、かつて、ハスカップ
の群生地ぐんせいちが広がっていたそうです。

ねん だい しょう わ しょ き
1920年代(昭和初期)、現在
は、とま こ まい し が い ち
苦小牧の市街地しがいちになっ
てい
るところにも、ハスカップの群生
ち
地ちは、たくさんあり、その実は、
古くから、生で食べるほか、砂糖
さとう
漬つけけ、塩漬しおづけけ、焼酎漬しょうちゅうづけなどの
ほ ぞん しょく
保存食ほぞんしょくとして利用されてきました。



かつての勇払原野の風景を残す美々川支流ペンケナイ川上流部
写真：「中居正雄著（とまこまいの植物）苫小牧民報社発行より」

その後、ハスカップの甘ずっぱい味あまを生かしたお菓子かしも製造され、販売はんばいされるよう
なり、ねん だい じ せい
1950年代には、自生じせいのハスカップを摘つみに行く人がたいへん多くなりました。



昔は、こんなスタイル
で、ハスカップを取りに
行ったんだって。

